Kabuto
Safety Meets Style

発売元 株式会社オージーケーカブト
〒577-0016 大阪府東大阪市長田西6丁目3番4号　TEL 06-6747-8031

製造元 QINGDAO KABUTO SAFETY TECHNOLOGY CO.,LTD.
No.6, Fenhe Rd., the economic and technological development zone of Jiaozhou, Qingdao, Shandong, China.

Kabuto Japan Web Site
www.ogkkabuto.co.jp

Kabuto Global Web Site
www.ogkkabuto.com

No.J-GEOSYS-2025-JUN/QD

SAFETY MEETS STYLE

保 存 用

Kabuto
Safety Meets Style

GEOSYS系（ジオシス） 取扱説明書

GEOSYS INSTRUCTION MANUAL

ご使用になる前に / NOTES BEFORE USE

- この取扱説明書は必ずヘルメットご使用前にお読みください。
  またお読みの後は、保管してくださいますようお願いいたします。
- 当製品は乗車用（オートバイ用）ヘルメットです。
  他の用途ではご使用になれません。
- 当製品は、車種により「メットインスペース」への収納が
  できない場合があります。あしからずご了承ください。

取扱説明書・インデックス

取扱説明書･インデックス・・・・・P-1
おもな部位の名称・・・・・P-2

安全・快適にご使用いただくために
ご使用になる前に・・・ P-3
PSC・SGマークについて・・・ P-4

空調機能
1 ベンチレーションシステム・・・ P-6
2 ベンチレーションの操作方法・・・ P-6
3 ウェイクスタビライザーPAT.・・・ P-8

バイザーについて
4 バイザーの角度調整方法・・・ P-9
5 バイザーの脱着方法・・・ P-10

シールドについて
6 シールドの脱着方法・・・ P-11
7 シールドラチェットの脱着方法・・・ P-13
8 Pinlock® Original Insert Lensの使用方法・・・ P-15

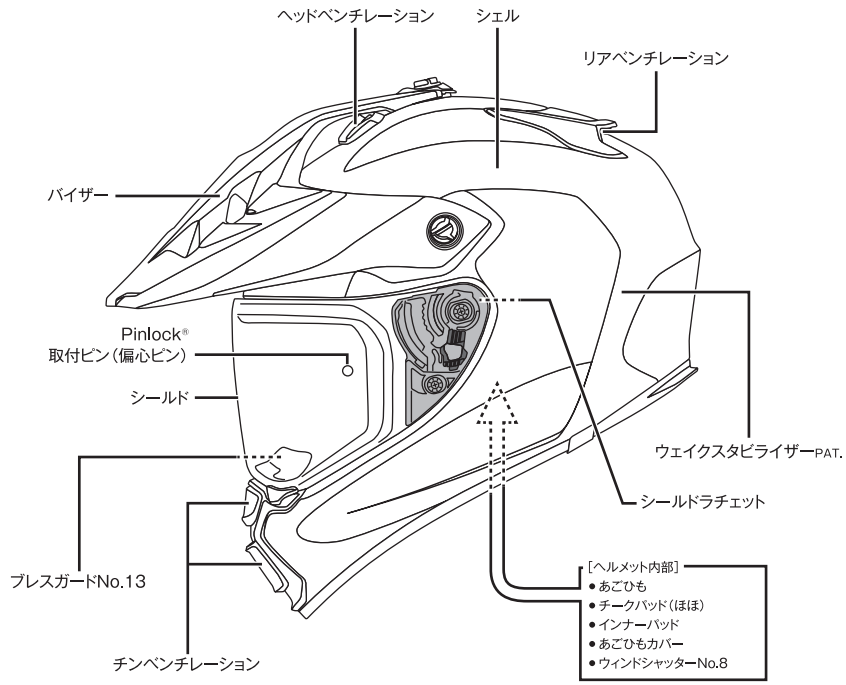
あごひもについて
9 あごひもカバーの脱着方法・・・ P-18
10 あごひもの取扱方法・・・ P-19

内装（インナーパッド・チークパッド）について
11 チークパッド（ほほ）の脱着方法・・・ P-20
12 インナーパッドの脱着方法・・・ P-21
重要 内装パッドの洗濯についてのご注意・・・・・・ P-23

ウィンドシャッター / ブレスガードについて
13 ウィンドシャッターの脱着方法・・・ P-24
14 ブレスガードの脱着方法・・・ P-27

お問い合わせ / パーツリスト
参考 当製品で採用されている内装素材について・・・・・・ P-28
商品に関するお問い合わせと修理のご依頼方法・・・ P-28
GEOSYSシリーズ パーツリストと修理対応表・・・ P-29

おもな部位の名称



ご使用になる前に

このたび、当製品をお買い上げ頂き、ありがとうございます。
この取扱説明書はお買い上げいただいたヘルメットの正しい取扱い方法や各機能、脱着などについて説明しております。ご使用になる前に必ず最後までお読みください。
またお読みの後は、大切に保管してくださいますようお願いいたします。
ヘルメットは、いかなる事故にも、絶対という訳ではなく、万一の際に危険の度合いを減らす装備の一つで、安全の一要素にすぎないということをよくご理解のうえご使用ください。安全快適なモーターサイクルライフを楽しむためにも、本書に記載の注意事項をよくご理解いただきますようお願いいたします。

⚠ 頭に合ったサイズのヘルメットを、お選びください。

大きすぎるヘルメットは、走行中ぐらつき危険です。また小さすぎるヘルメットは、頭を締めつけ痛くなる可能性もあるので、頭によく合ったヘルメットをお選びください。

⚠ あごひもは必ずしっかり締めてください。

あごひもを締めなかったり、締め方がゆるいと、万一転倒した時などに脱げてしまい、頭を守る事ができず非常に危険です。

⚠ 大きな衝撃を受けたヘルメットは外観上に損傷がなくても、ご使用にならないでください。

ヘルメットはシェル及び衝撃吸収ライナーが潰れることで、衝撃エネルギーを吸収します。大きな衝撃を受けたヘルメットは、既にライナーが潰れている場合が多く、そのまま使用すると、再度衝撃エネルギーを吸収できず非常に危険です。外観にキズ等がなくても、使用しないでください。

⚠ ヘルメットの改造は絶対にしないでください。

ヘルメットに穴を開けたり、内部の衝撃吸収材を削ったり、また、あごひもなどは絶対に改造しないでください。ヘルメット本来の性能が発揮できなくなり非常に危険です。また部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠ ヘルメットのお手入れは薄めた中性洗剤でふき取るようにしてください。

ガソリン、シンナー、ベンジン、熱湯（50℃以上）や、塩水等は絶対に使用しないでください。ヘルメットの材質が冒され、ヘルメットの性能が低下するおそれがあります。

⚠ ヘルメットのペイントはもちろん溶剤の塗布は絶対にしないでください。

ヘルメットに塗料、接着剤、ガソリンなどの溶剤を塗布しますと、それらの影響により材質が侵され衝撃吸収力が低下する場合がありますので絶対におやめください。

⚠ ヘルメットは大切に取扱ってください。

ヘルメットは丈夫だからといって、床等に放り投げたり、上に座ったりしないでください。
その度に衝撃を吸収するため、衝撃吸収力が低下します。万が一の為に大切に取扱ってください。
また、乗車時での頭を保護する以外の目的には使用しないでください。

⚠ ヘルメットの保管について

ヘルメットは直射日光の当たる車の中や、暖房機のそばなど、高温（50℃以上）の場所に長時間放置しないでください。（ヘルメットに使われている材質が冒され、性能が低下します。）
また、落下しやすい、オートバイの上や高所などでの保管はしないでください。

⚠ シールドのお手入れについて

シールドの汚れを取るときには、柔らかい布を使い、薄めた中性洗剤で汚れをふき取り、最後に清水ですすいだ布で拭きあげてください。
ガソリン、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

⚠ フルフェイスヘルメット使用上のご注意

フルフェイスをご使用の場合、走行中のヘルメット内はほぼ一定の温度ですが、高速度で移動しているため周辺の環境は常に変化しています。そのため、突然の雨やトンネルに入った直後、峠道など高低差がある場合は、ヘルメット内の温度と周辺との気温差が生じるため、シールドが急激に曇ってしまう場合があります。この様な状況が予想される時は、あらかじめシールド開度の調整や適切なスピードにするなど注意をするようお願いします。
なお、シールドの開閉操作及びベンチレーションシャッター操作は、必ず停止した状態で行ってください。走行中の操作は危険です。

⚠ 乗車用ヘルメットの有効期間は、「購入後3年間」です。

ヘルメットは様々な状況下において使用されるために、見た目以上に劣化が進んでいることがあります。このため、SGマークにはヘルメットの耐久性を考慮して、「購入後3年間」と有効期限を定めて、ヘルメットに表示しております。有効期限を過ぎたヘルメットは、事故の際に十分な保護性能を発揮できない場合が多く、正常に使って異常が認められなくても、ご購入後3年以内に交換してください。

PSC・SGマークについて

「PSC マーク」

「P:Product（製品）」、「S:Safety（安全）」、「C:Consumer」の頭文字を略号としてマークで表しています。これは消費生活用製品安全法に基づき製造された製品に表示されるマークで、消費者に対して生命の危険や身体に特に危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品を国が「特定製品」として指定していることを意味します。日本国内で販売されるヘルメットは、このマークが表示されていなければ、販売することはできません。

「SG マーク」

SG マークは、製品安全協会が定めた SG 基準に適合している製品に表示されるマークです。また SG マークは、万一ヘルメット（ただし、シールド等の付属品は含まない）に欠陥があり、製品安全協会の定める SG 基準に適合していないために着用者が損害を被った場合に、その損害を賠償するものです。なおこの制度はプロオートバイレースやサーカスなどの特殊な用途に用いている際の負傷や、SG 基準が定めるヘルメットの性能を超える強い衝撃を受けたための負傷などは賠償の対象になりません。

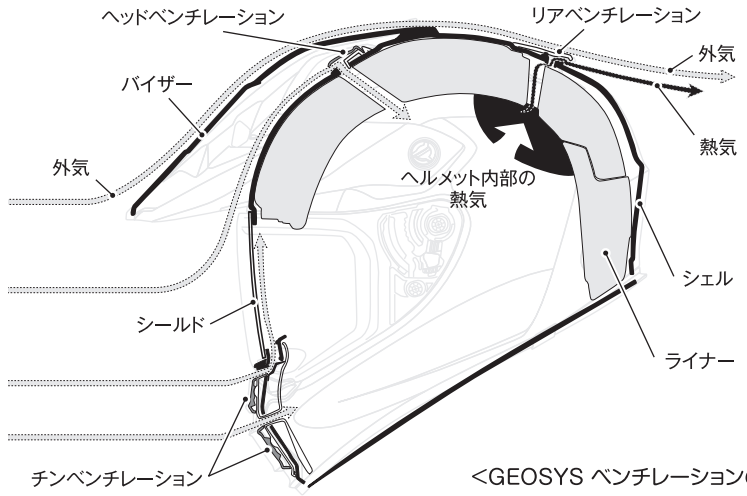
SGマークに関するお問い合わせ先
〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ 三ノ輪 2F
製品安全協会 ☎(03)5808-3300(代)

Geosys

1 ベンチレーションシステム

[ベンチレーションシステム]

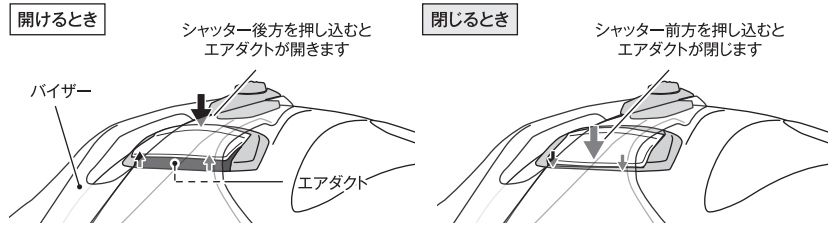
オートバイ走行時における前方からの風圧を利用して効率よく外気を導入し、ヘルメット内部の熱気を排出させるシステム。またこのベンチレーションには、風の導入を任意で操作する「シャッター機能」が装備されており、寒い冬や雨天時などの冷気や水滴の侵入をシャットアウトします。※リアベンチレーションには開閉機能がありません。



<GEOSYS ベンチレーションの構造>

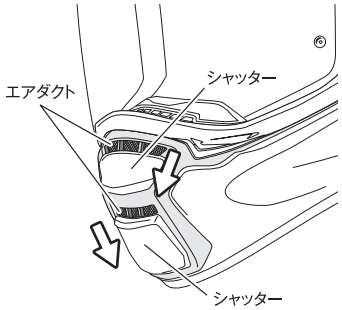
2 ベンチレーションの操作方法

[ヘッドベンチレーションの開閉]



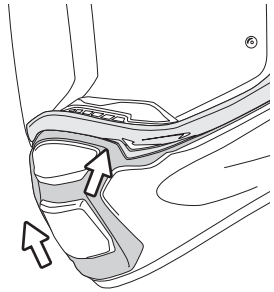
[チンベンチレーションの開閉]

開けるとき



各シャッターを下げると
各ベンチレーションは開きます。

閉じるとき



各シャッターを上げると
各ベンチレーションは閉まります。

ご注意

各ベンチレーションは、強い力を与えると部品が破損する場合がありますので、取扱いにはご注意ください。

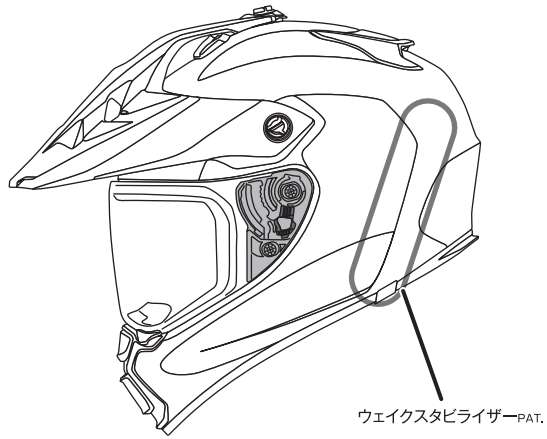
⚠警告

- 走行中のベンチレーション操作は危険ですので絶対におやめください。
  操作するときは、走行前あるいはオートバイを安全な場所に必ず停車させてから操作してください。
- 各ベンチレーションのエアダクト（エア吸排出穴）は、転倒や事故の際の大きな衝撃を考慮し、最良の大きさ・数で設計しております。むやみに穴を広げたり穴の数を増やしたりすると、ヘルメットの性能を低下させる原因となり、大変危険ですので絶対におやめください。

ベンチレーションが破損した場合

破損した場合は、オプション販売またはメーカー修理となります。（29～30ページ参照）
なお修理受付の際、ヘルメットの安全性能が保持出来ないと判断した場合は、修理が出来ない事があります。

3 ウェイクスタビライザーPAT.

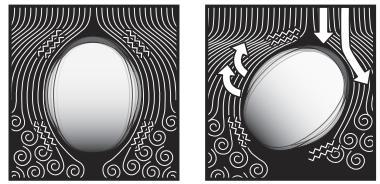


[シェル一体型・ウェイクスタビライザーPAT.]

ウェイクスタビライザーPAT.は、様々な角度から行われた風洞実験の分析結果から生み出された、Kabutoの空力システム。走行中に発生する帽体付近の空気の流れをコントロールし、負荷を軽減します。

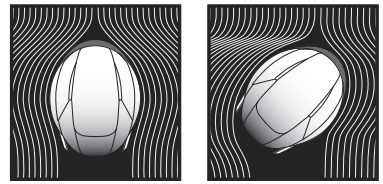
PAT.No.4311691

従来のヘルメット



ヘルメットの前後に、乱流が発生。
ヘルメットが安定しにくい。

ウェイクスタビライザー採用のヘルメット



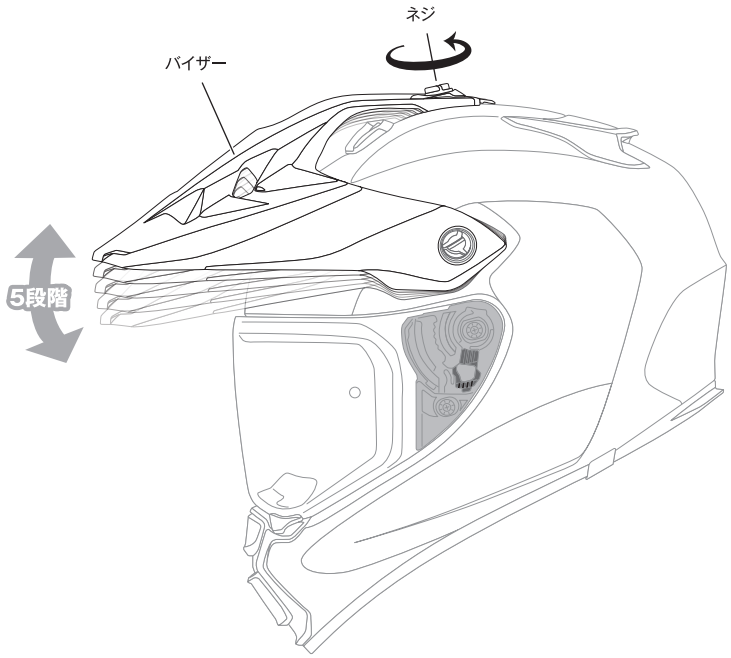
シェル表面に突起（スタビライザー）をもうけることで乱流をコントロール。
直進時は安定し、首振りもスムーズになる。

4 バイザーの角度調整方法

ー 角度調整方法 ー

バイザーは、中心のネジを緩めてバイザーを
スライドさせると5段階の角度調整ができます。
お好みのバイザー角度でネジを締めてください。

※両サイドのネジは角度調整時には使用しません。



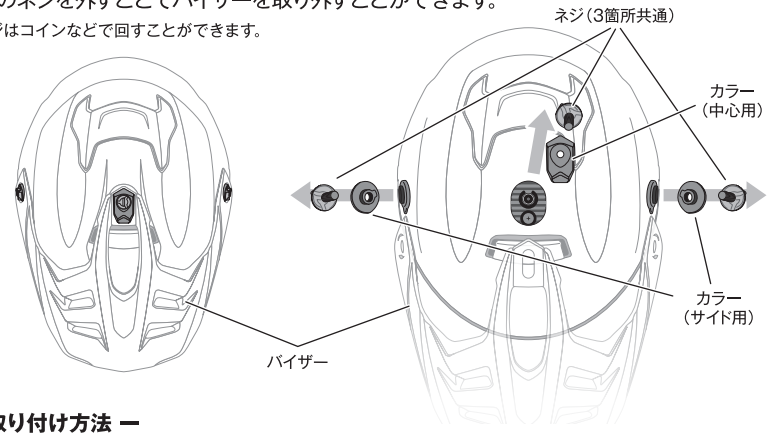
脱着方法は次のページへ

5 バイザーの脱着方法

ー 取り外し方法 ー

全てのネジを外すことでバイザーを取り外すことができます。

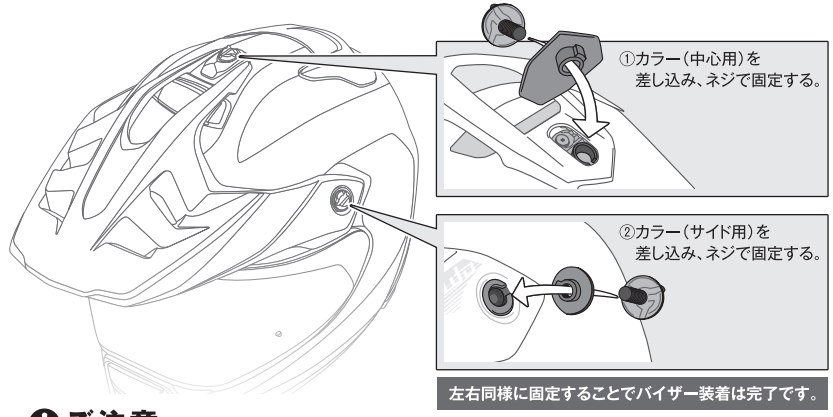
※ネジはコインなどで回すことができます。



ー 取り付け方法 ー

はじめに中心の固定部に適合するカラーを差し込み、ネジで固定してください。

各部のカラーには凸、固定部には凹があるので合わせてください。



ご注意

完全に固定されていることを確認してから走行してください。
正しく取り付けていない状態で走行することは危険ですのでおやめください。

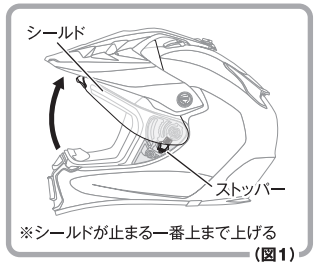
6 シールドの脱着方法

ーシールドの取り外しかたー

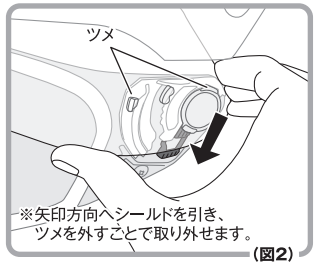
①シールドを **(図1)** のように一番上まで上げた状態にします。（止まる位置まで上げてください）

②赤色のストッパーを下に引くと1箇所のツメが外れてシールドが少し浮きます。外れたツメ側にシールドを引き抜くと **(図2矢印方向)** シールド片側が完全に取り外せます。

③この作業をもう片側も行うと、シールドが完全に取り外せます。



(図1)

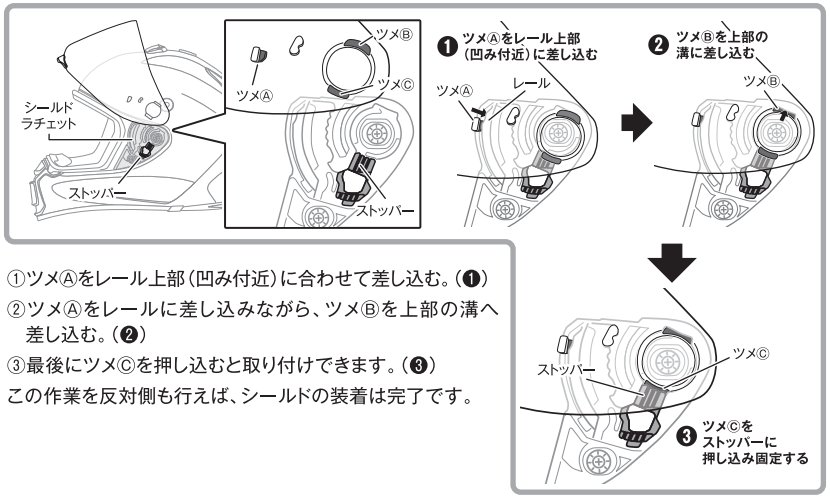


(図2)

ご注意

- 構造上、シールドを一番上まで上げないと、シールドを外せません。
- 取り外す際は、シールドを無理に引き抜いたり、ねじったりしないでください。シールドやラチェット機構が破損するおそれがあります。
- 取り外したシールドは、キズが付かないよう、お取り扱いには十分ご注意ください。

ーシールドの取り付けかたー



①ツメⒶをレール上部（凹み付近）に合わせて差し込む。（❶）

②ツメⒶをレールに差し込みながら、ツメⒷを上部の溝へ差し込む。（❷）

③最後にツメⒸを押し込むと取り付けできます。（❸）

この作業を反対側も行えば、シールドの装着は完了です。

ご注意

- 取り付ける際は、シールドを無理に差し込んだり、ねじったりしないでください。シールドやラチェット機構が破損するおそれがあります。
- 取り付けたあと、一度シールドを抜く方向に軽く引っ張り、抜けない事を必ず確認してください。
- シールドの取り付けが完了したら、シールドを3～4回開閉し、正確に開閉動作が出来るか確認を行ってください。その際に異音がしたり開閉動作がうまく出来ない場合は、当項目を再度よくご覧のうえ、最初から取り付け直してください。

⚠警告

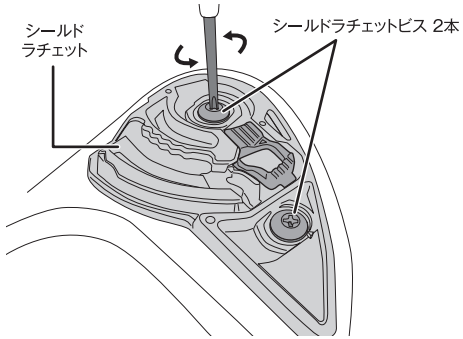
- シールド取り付け後は、シールドが確実に取り付けられているか、また、開閉動作が正しく出来ているか確認をしてから走行してください。取り付けが不完全ですと、正しく作動しない場合や、脱落する場合などがあり大変危険です。開閉動作時に何らかの異常が見られる場合は、当項目を再度よくご覧のうえ、最初から取り付け直してください。
- シールドは消耗品です。虫や飛び石などでシールド表面がキズ付くと、視界を妨げる原因となり、大変危険です。キズや汚れが著しい場合は、使用を続けずに早めに新しいシールドに交換してください。

7 シールドラチェットの脱着方法

「シールドラチェット」とは、シールドの開閉や脱着機能をコントロールする部分です。
「6 シールドの脱着方法」でシールドを完全に取り外すとシールドラチェットが現れます。

ーシールドラチェットの取り外しかたー

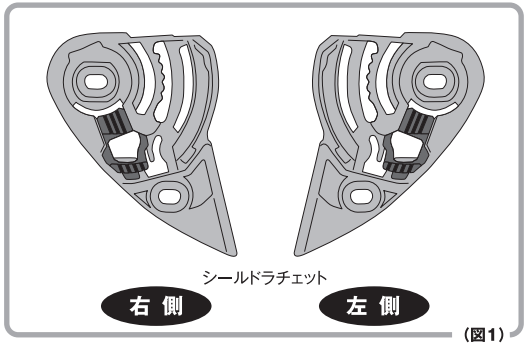
シールドラチェットを取り付けているシールドラチェットビスをサイズの適したドライバーで、左（反時計方向）に回すとビスが取り外せシールドラチェットも完全に取り外せます。
この作業を反対側も行います。



ご注意

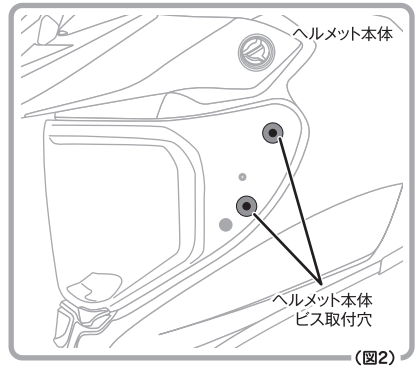
- シールドラチェットビスを取り外す際は、ビスに対して正しくサイズが合ったドライバーを選び、ビスに対して垂直になるように回してください。サイズが合っていなかったり斜めに回したりすると、ビスのネジ山が潰れてしまうおそれがあります。
- 取り外したビスは紛失しないようご注意ください。

ーシールドラチェットの取り付けかたー



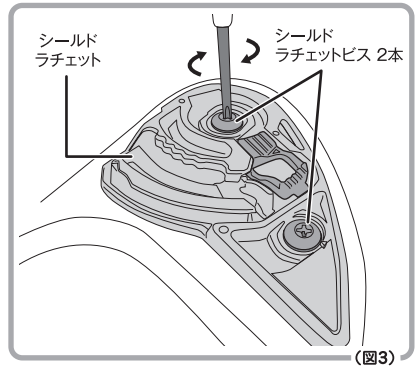
（図1）

①まずは、（図１）のように、シールドラチェットの方向を確認します。



（図2）

②ヘルメット本体・横のくぼみにシールドラチェットを乗せ、シールドラチェットの取付穴とヘルメット本体の取付穴を合わせます。（図2）



（図3）

③シールドラチェットビスを２本とも、右（時計回り）方向にしっかり締めます。この作業を両側とも行うと取り付け完了です。（図3）

ご注意

- シールドラチェットビスを締める際は、必要以上に締め付けないでください。ビスやその他部品が破損するおそれがあります。
- シールドラチェットビスを締める際は、ビスに対してドライバーを垂直にして回すようにしてください。ビスのネジ山が潰れてしまうおそれがあります。

⚠警告

- シールドラチェットは、シールドの開閉動作に重要なパーツです。取り付けは確実に行い、取り付けが終わったら、シールドが正しく完全に下まで閉まるか、また開閉動作は正しく行えるかなどの確認を必ず行ってください。
- シールドラチェットビスは、定期的に緩みをチェックし、増し締めを行ってください。緩んだまま走行すると、走行中にシールドが脱落するおそれがあり、大変危険です。

8 Pinlock® Original Insert Lensの使用方法

PINLOCK

Pinlock®Original Insert Lensは、
Pinlock® fog-free system社の登録商標です。

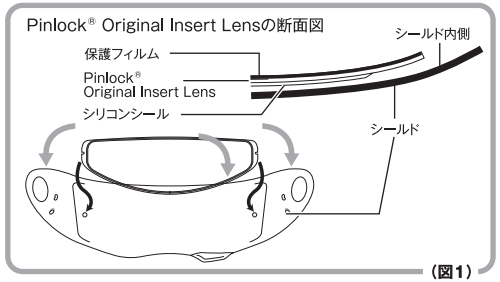
Pinlock® Original Insert Lens （ピンロック® オリジナル･インサート･レンズ）	お使いいただける品番: **CD-1用**

※Pinlock® Original Insert Lensは、当製品をお買い上げになった販売店にて別途お買い求めください。

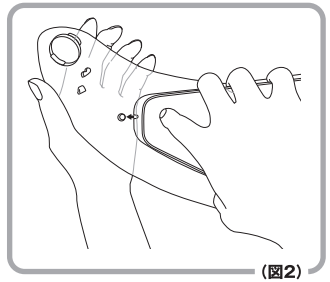
[Pinlock® Original Insert Lensについて]

冬期や雨天時などのヘルメット内部の温度変化によるシールドの曇りを抑えるシートです。
シールドとPinlock® Original Insert Lensの間に適度なすき間を設けることで、
外気温とヘルメット内部の温度差を平衡に保ち、曇りを抑えクリアな視界をキープします。

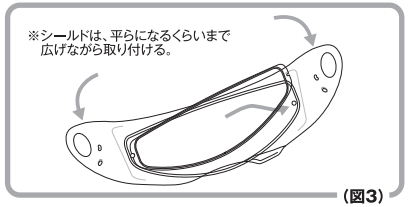
ーPinlock® Original Insert Lensの取り付けかたー



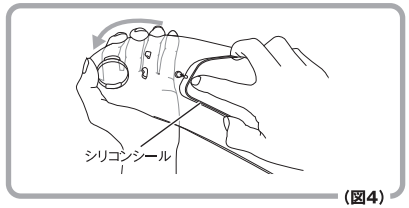
（図1）


（図2）

①Pinlock® Original Insert Lensの保護フィルムを剝がさずに、シリコンシールがある面をシールド内側に密着するように取り付けます。このとき、Pinlock® Original Insert Lensの取り付け部を片側よりシールド内側にある偏心ピンへ差し込みます。（図1、図2）

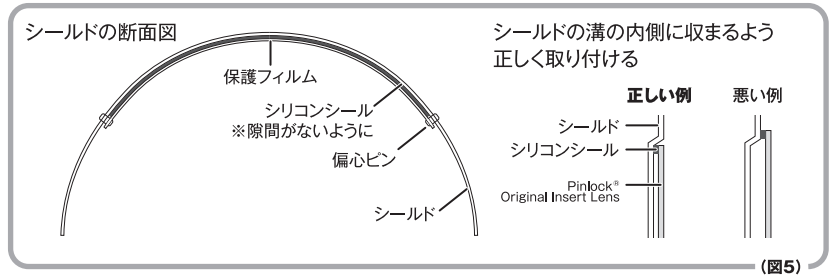


（図3）



（図4）

②片側の偏心ピンにPinlock® Original Insert Lensを差し込んだまま、シールドを平らになるくらいまで広げ、反対側の取り付け部も差し込み、シールドをゆっくり元に戻します。（図3、図4）



（図5）

③シールドをヘルメットに取り付けて、Pinlock® Original Insert Lensのシリコンシールが全てに渡って密着しているかを確認します。（図5）このとき、隙間が見られる場合は、「取り付け後の調整」を参照のうえ、調整してください。

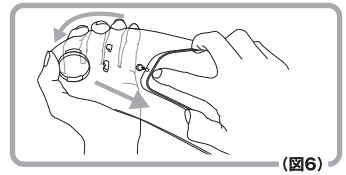
※ 密着度確認は、必ずヘルメットにシールドを装着した状態で行ってください。ヘルメットに装着していない状態では、Pinlock®Original Insert Lensの応力により、シールドが装着時よりも広がっている場合がありますので、ご注意ください。

④最後にPinlock® Original Insert Lensの保護フィルムを剝がして完了です。

ー取り外しかたー

①シールドをヘルメットより取り外します。

②取り付けたときの要領で、シールドを平らになるまで広げながら、偏心ピンからPinlock® Original Insert Lensを取り外します。（図6）


（図6）

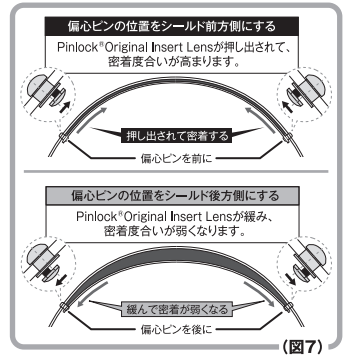
ー取り付け後の調整ー

Pinlock® Original Insert Lensとシールドに隙間が見られる場合は、調整を行ってください。

①ヘルメットからシールドを取り外し、Pinlock® Original Insert Lensを取り外します。

②偏心ピンを工具などを用いて（図7）のように、回して調整します。

③再度Pinlock® Original Insert Lensをシールドに取り付け、ヘルメットに取り付けてから密着度合いを再確認します。調整が必要な場合は、再度上記の作業を行います。



（図7）

※ Pinlock®Original Insert Lensに関する次ページの、**「ご注意」**、**「Pinlock®Original Insert Lens･取り扱い上のご注意」**についても必ずよくお読みください。

ご注意

- Pinlock® Original Insert Lensを取り付ける際は、シールドを十分平らにして取り付けてください。平らではないままの装着は、偏心ピンが破損する場合があります。
- Pinlock® Original Insert Lensを取り付ける際は、シールド内側の汚れをきれいに取り除き、Pinlock® Original Insert Lensのシリコンシール側の曇り止め部分には手を触れないよう十分に注意して取り付けてください。
- お手入れの際、ベンジン・シンナー・ガソリン・ガラスクリーナー、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。Pinlock® Original Insert Lensの材質を冒すおそれがあります。
- 乾燥の際、50℃以上になる場所や暖房機のそばへの放置や、ドライヤー、直火の使用などは絶対におやめください。熱によりPinlock® Original Insert Lensの材質を冒すおそれがあります。

Pinlock®Original Insert Lens・取り扱い上のご注意

- 当品は、Pinlock® Original Insert Lensに対応した専用シールドのみご使用になれますが、それ以外のシールドにはご使用いただけません。
- シールドとPinlock® Original Insert Lensの間の曇りや、雨水が浸入する場合は、Pinlock® Original Insert Lensを取り外し、シールドとPinlock® Original Insert Lensの双方を十分に乾燥させてから、再度取り付けてください。
- Pinlock® Original Insert Lensは、定期的に取り外してメンテナンスを行ってください。長期間取り付けたままにすると、シリコンシールがシールドに固着する場合があります。
- Pinlock® Original Insert Lensをご使用になる場合は、必ず専用のシールド、ピンをご使用ください。また、それ以外のシールドを加工したり、純正部品以外のピンを取り付けたりしないでください。
- チンベンチレーションを閉じたままの状態や、ウィンドシャッターなどを使用すると、Pinlock® Original Insert Lensを使用しても曇る場合がありますので、十分ご注意ください。
- 乗車ポジションによりシリコンシールが視界に入る場合があります。

次のような場合は、そのまま使用せず、
新しいPinlock® Original Insert Lensに交換してください。

- 曇り止め効果の低下や、傷などが付いた場合。
- 気候による伸縮や長期使用により取付部が変形し、密着調整の範囲を超えているような場合。

9 あごひもカバーの脱着方法

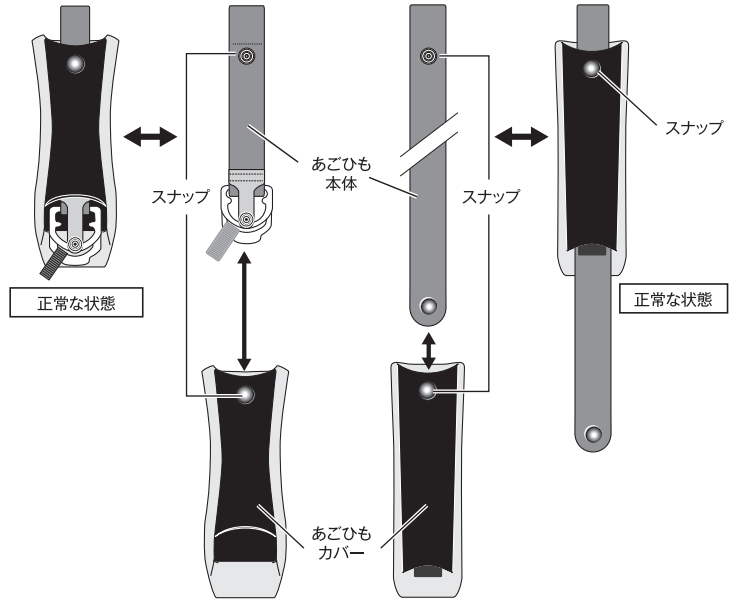
このヘルメットは、汚れた時などにあごひもカバーを取り外して洗うことができます。

ー取り外しかたー

①あごひもの根元にあるスナップを外します。
②「あごひもカバー」をあごひも本体より引き抜きます。

ー取り付けかたー

①取り外した逆の手順（あごひもカバーの方向に注意）で、あごひもカバーの上方より、あごひもを通し、あごひもカバーの穴よりあごひもの先端を出します。
②最後にスナップを止めれば完了です。

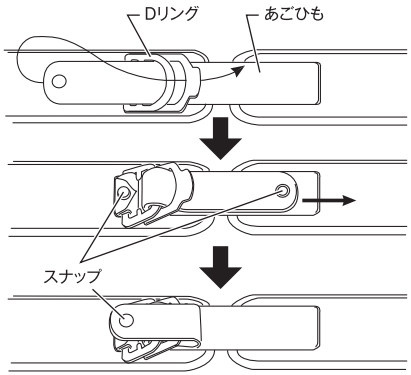


ご注意

- あごひもカバーを洗濯する際は、洗たく機による繊維の痛みを防止するため、「洗濯用ネット」などに入れて、洗濯を行ってください。
- あごひもカバーの方向を逆に取り付けると、Dリングが隠れてしまいますので、取付時には方向にご注意ください。

10 あごひもの取扱方法

①あごひもをDリングに通し、矢印の方向に引いて、締めてください。
②最後にあごひものバタ付きを防止するためのスナップを止めます。



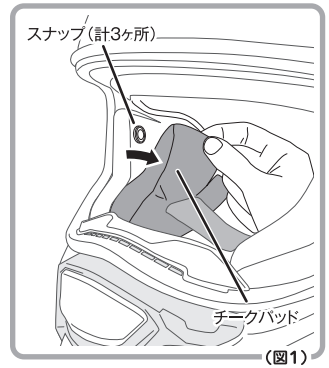
⚠警告

ヘルメットをご使用の際、あごひもは必ずしっかりと締めてください。締めないまま走行すると、万一の転倒や事故の際に、ヘルメットが脱落する可能性があり、大変危険です。

11 チークパッド（ほほ）の脱着方法

[チークパッドの取り外しかた]

チークパッドをしっかりと持ち、チークパッド裏側にある**スナップ3ヶ所**を取り外して、前側より引き抜けば取り外せます。（図1）
この作業を左右両方とも行います。



（図1）

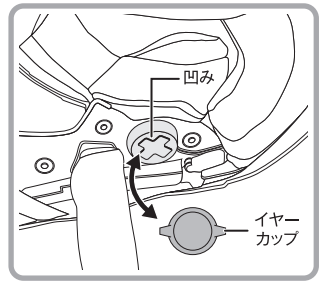
ご注意

チークパッドを取り外す際は、スナップが付いている根元から外すようにしてください。無理に引っ張ったりすると、チークパッドやスナップが破損するおそれがあります。

参考 イヤーカップについて

チークパッドを取り外すと「イヤーカップ」が帽体側に面ファスナーで装着されています。このイヤーカップは用途やフィッティングに合わせて、お好みで脱着できます。

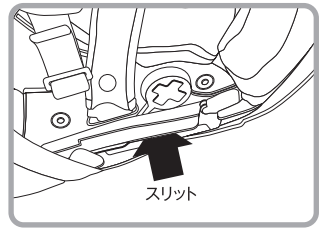
※イヤーカップは左右共通です。



参考 インカム取付スペースについて

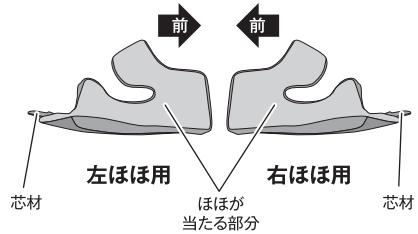
当製品には、インカムやカメラなどの機器を取り付けるための「スリット」が予め設置されております。チークパッドを外すと「スリット」があります。

※実際の取り付けについては、各メーカーの取扱説明書に従ってください。

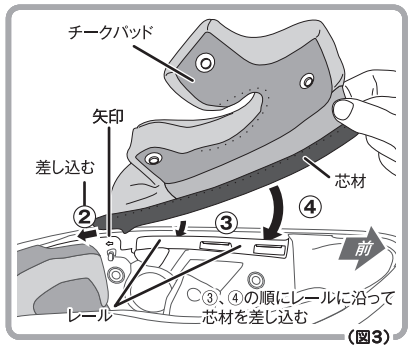


[チークパッドの取り付けかた]

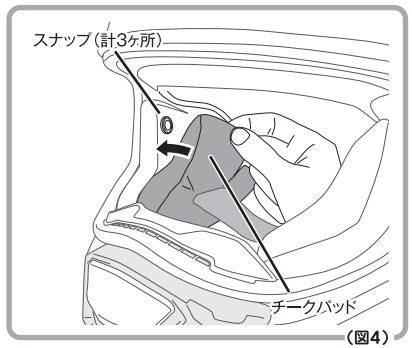
①チークパッドの方向を確認します。（図1）



次ページにつづきます。



（図3）



（図4）

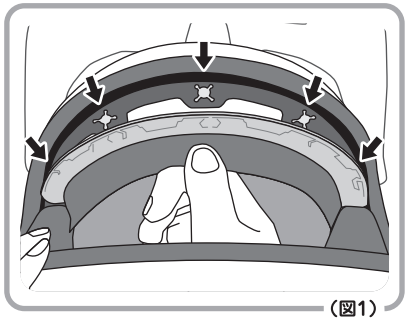
② ⇦マークをめやすに、チークパッドの芯材先端を差し込み部に差し込みます。
（フチゴムをめくると差し込み部が見えます）（図3）
③・④ 芯材をレールに沿って順に差し込んでいきます。（図3）
⑤スナップ3カ所を留めます。この作業を反対側も同じように行います。（図4）。

ご注意

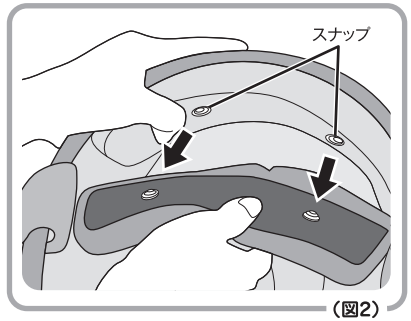
チークパッドが完全に取り付けられていることを確認してから走行してください。また正しく取り付けていなかったり、取り付けずに走行するのは、危険ですのでおやめください。

12 インナーパッドの脱着方法

[インナーパッドの取り外しかた]


（図1）

① （図1）のように、額付近のスナップ5箇所を下方向に引っ張って外します。



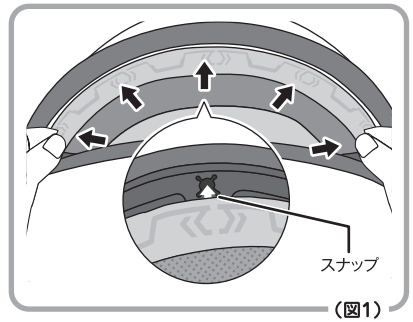
（図2）

②次に後頭部にある、2箇所のスナップを外せば、インナーパッドを全て取り外せます。（図2）

ご注意

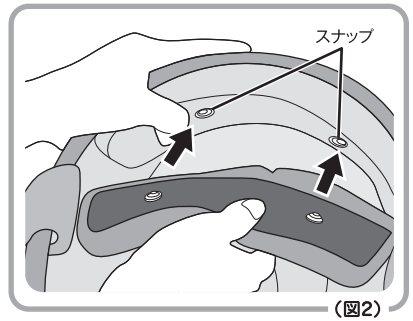
インナーパッドを取り外す際、スナップは強引に引っ張らず、ゆっくり引き抜いてください。パッドの生地やその他部品が傷むおそれがあります。

[インナーパッドの取り付けかた]



（図1）

① （図1）のように本体にある、5箇所のスナップをそれぞれ押し込みます。



（図2）

②最後に後頭部にある、2箇所のスナップをそれぞれ取り付けます。

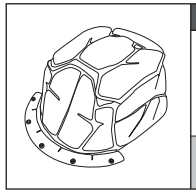
ご注意

- インナーパッドが確実に取り付けられていないと、走行中にヘルメットがずれる可能性があり、大変危険です。ジョイントおよびスナップは確実に取り付けてください。
- ヘルメットの装着感をより良くするためにも、パッド類の装着は正確に行ないましょう。

参考 インナーパッド、チークパッド、あごひもカバーの互換性について

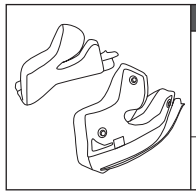
内装は以下の区分で帽体サイズ内で互換性があり、細やかなサイズ調整が可能です。

■インナーパッド



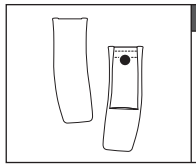
シェルサイズ	商品サイズ表記	パッドの厚さ(初期設定)	互換性	パッケージ内容
Mシェル	XS	15mm	XSとSの2サイズで互換性あり	インナーパッド×1個入
	S	9mm		
	M	15mm	MとLの2サイズで互換性あり	
	L	9mm		
Lシェル	XL	12mm	XLとOPTIONの2サイズで互換性あり	
	OPTION	6mm		

■チークパッド



シェルサイズ	商品サイズ表記	パッドの厚さ(初期設定)	互換性	パッケージ内容
Mシェル	XS	35mm	全てのサイズで互換性あり	チークパッド(左右)×1セット入
	S	30mm		
	M	25mm		
	L	20mm		
Lシェル	XL	20mm		
	OPTION	15mm		

■あごひもカバー



互換性	パッケージ内容
全サイズ共通 全サイズで互換性があります。	あごひもカバー(左右)×1個入

パーツ情報

QRコードからご覧いただけます。

QRコードの読み取りが出来ない場合はインターネット検索からでもご覧いただけます。

インターネット検索からご覧いただく場合 Kabuto GEOSYS パーツ 検索

重要 内装パッド(インナー・チーク・あごひもカバー)の洗濯についてのご注意

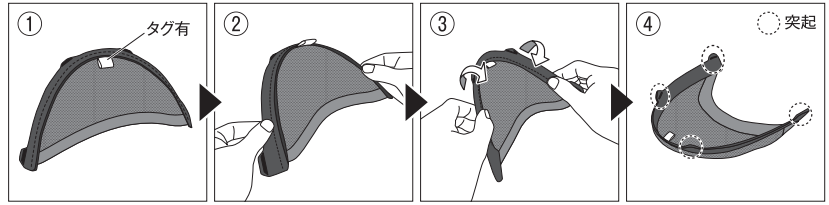
- 当製品の内装パッドは、取り外したあとに洗えます。洗う際は一般に市販されている家庭用洗濯洗剤を使用し、手洗いもしくは洗濯機（必ず洗濯ネットに入れる事）で、洗ってください。
- 洗濯時は、市販の洗濯用洗剤を水もしくはぬるま湯でご使用いただき、熱湯や化学洗剤、有機溶剤などでのクリーニングは、品質の低下や傷みの原因となりますので、絶対に使用しないでください。

- 市販の洗濯用洗剤でも、種類によっては多少の色落ちが発生する可能性がありますので、洗濯の際はなるべく個別に分けて洗ってください。
- ５０℃以上となる、乾燥機能付き・ランドリーなどでの洗濯は、パッドの品質低下や傷みの原因となりますので、それらの機器の使用をさけてください。
- 洗濯後はしっかり水気をきり、なるべく直射日光の当たらない場所で陰干しを行い、十分乾燥したことを確認してからヘルメット本体へ装着してください。
- 内装パッドは消耗品です。通常の使用でも使用頻度によっては、生地の傷みやインナーフォームの劣化が進みますので、適時交換をお薦めします。

13 ウィンドシャッターの着脱方法

この製品には、標準付属品として「ウィンドシャッター」が同梱されています。
このパーツは、走行中に発生する、あご付近からの風の巻き込みを軽減するもので、季節や用途に応じてお好みで着脱できます。

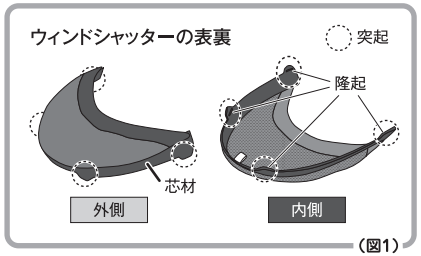
[ウィンドシャッターを取り付ける前に]



初期状態のウィンドシャッターは①のように芯材が裏返っております。
②→③の順に芯材を裏返し、④のように突起を立てた状態でヘルメットの前方（あご部分）へウィンドシャッターを取り付けてください。

着脱方法は次のページへ

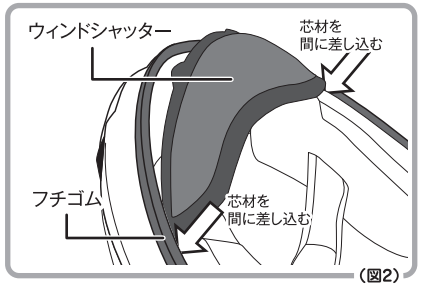
[ウィンドシャッターの取り付けかた]



（図1）

①まず（図1）をご覧のうえ、突起の隆起が内側を向いていることを確認し、「外側」と「内側」をご確認ください。

外側	ヘルメットの外側になります。
内側	あごが直接触れる部分になります。

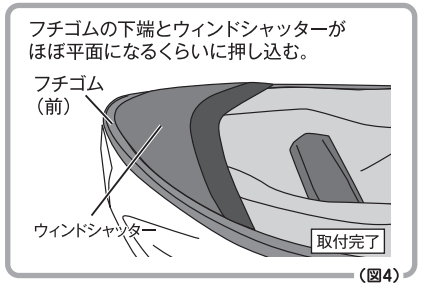


（図2）

②次に（図2）のように、ヘルメットを裏返し、ヘルメットの前方（あご部分）へウィンドシャッターを取り付けます。
このとき、ヘルメットとウィンドシャッターの中心を合わせ、両側の芯材をチークパッドの前付近とフチゴムの間に差し込みます。

（図3）

③次に（図3）のように、両サイドから中央にかけ、均一にウィンドシャッターの芯材をフチゴムの内側へ押し込んでいきます。



（図4）

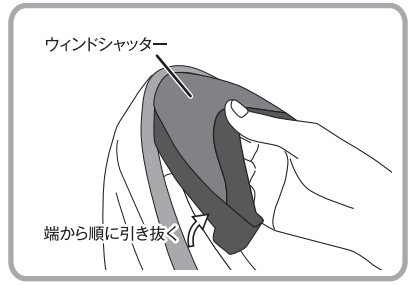
④フチゴムの下端とウィンドシャッターの外側がほぼ平面になるよう、セットすれば取り付け完了です。（図4）

ご注意

- 取り付けは確実に行ってください。
  取り付けが不完全ですと、走行中に脱落するおそれがあります。
- 取り付ける際、接着剤などは使用せず、必ず上記の方法でのみ取り付けを行てください。接着剤などの成分により、ヘルメットの材質が侵されるおそれがあります。

[ウィンドシャッターの取り外しかた]

ウィンドシャッターの右端もしくは左端から順に引き抜くことで取り外せます。



ご注意

ウィンドシャッターを取り外す際は、強く引っぱらず、慎重に取り外してください。生地や部品が破損することがあります。

14 ブレスガードの脱着方法

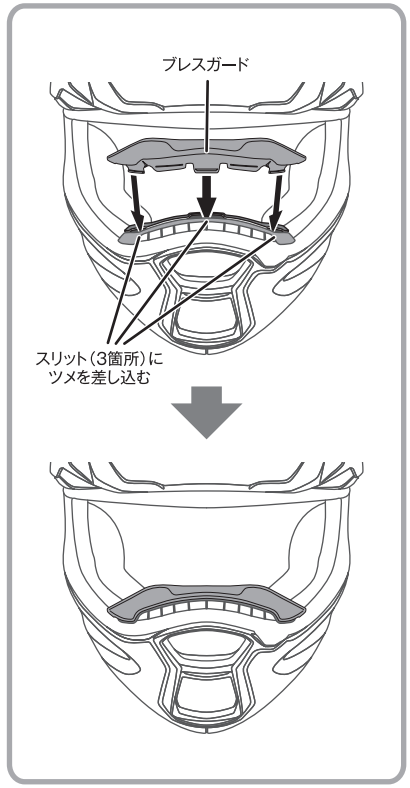
ブレスガードは用途に応じてお好みで脱着できます。

[ブレスガードの取り外しかた]

ブレスガードをしっかりつかみ、
引き抜くと取り外せます。

[ブレスガードの取り付けかた]

右図のように、ヘルメットにある取り付け位置（3カ所）へブレスガードのツメを差し込み取り付けます。



ご注意

取り付ける際、接着剤などは使用せず、必ず上記の方法での取り付けのみ行ってください。接着剤などの成分により、ヘルメットの材質が侵されるおそれがあります。

参考 当製品で採用されている内装素材について

COOLMAX®

**当製品は、内装生地に汗を素早く蒸散し、
いつもサラッと快適な「クールマックス®」を使用しています。**

ー 汗を素早く蒸散し、いつもサラッと快適 ー

- 体から発汗すると、「クールマックス®」は水分を外へ排出し、空気が外部から入り込んで、冷却・乾燥させる効果があり、体表温度を下げ、優れた水分調整機能を発揮します。
- 「クールマックス®」は自然な風合いを持ち、ソフトで軽量、通気性にも優れています。

※「COOLMAX®」および「クールマックス®」はインビスタ社の登録商標です。

SEK
制菌加工
（繊維上の細菌の増殖を抑制します。）
加工部位:インナーパッド表地
認証番号 108B16
一般社団法人繊維評価技術協議会
剤名:無機系（金属塩）
KOKORO CARE

当製品は、インナーパッド表地に、繊維上の細菌の増殖を抑制する「制菌加工」を施しています。

DEOFACTOR®
deodorant & bacteriostatic

DEOFACTOR®は、制菌作用により、衣類や繊維製品に付着する有害物質を分解します。素材を選ばず、風合いを保ちながら快適な肌さわりを実現する、新たな生地加工技術です。

商品に関するお問い合わせと修理のご依頼方法：

修理のご依頼方法

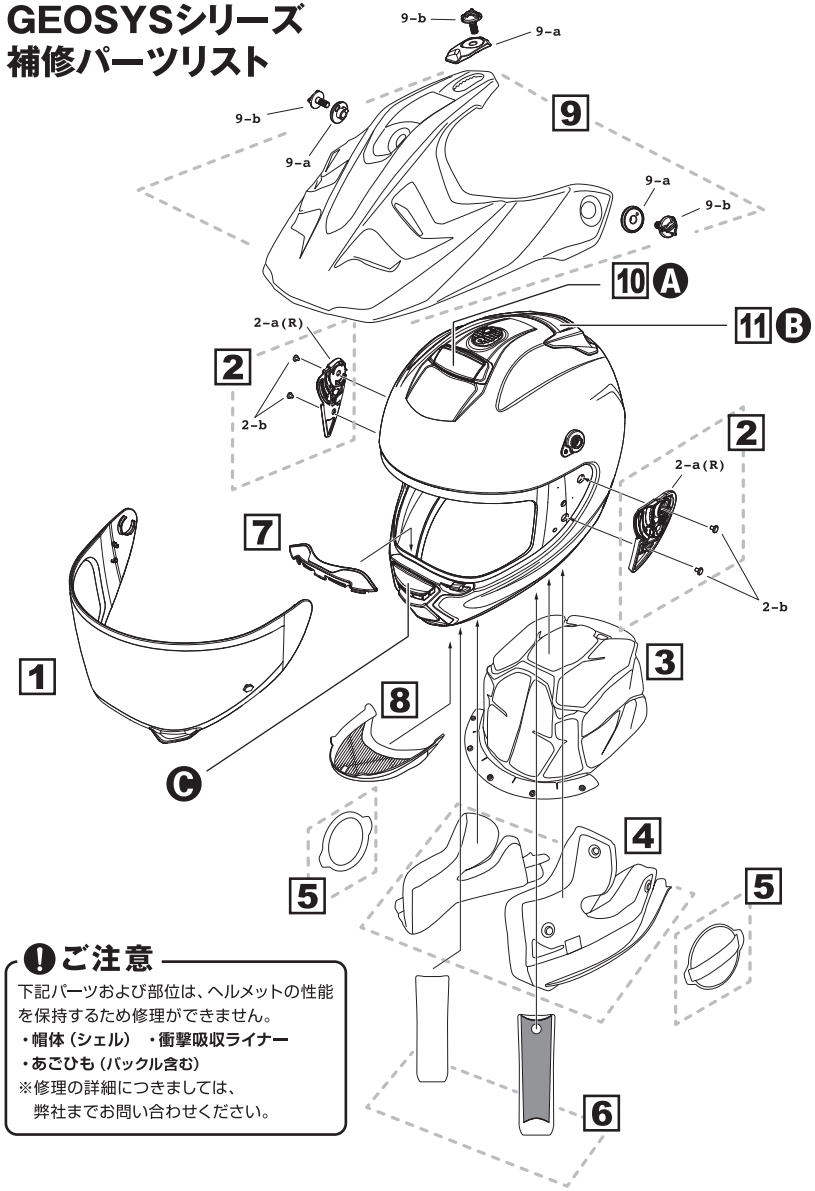
■修理のご依頼は、お買い上げの販売店もしくは、弊社までお問い合わせください。
■修理ご依頼品をお送りいただく前に、必ず下記までご連絡、もしくはお問い合わせください。事前にご連絡をいただけない場合、スムーズな修理対応ができない場合がございます。
※修理品到着後、弊社にて「ヘルメット本体の安全性能を確保しかねる」と判断した場合は、修理をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

修理できないパーツ

■下記パーツおよび部位は、ヘルメットの性能を保持するため、修理できません。
●帽体（シェル）　●衝撃吸収ライナー（本体）　●あごひも（バックル含む）
※その他、修理の詳細につきましては、弊社までお問い合わせください。

商品に関するお問い合わせ・修理のご依頼についてのご連絡先：
株式会社 オージーケーカブト **TEL: 06-6747-8031** 〒577-0016 大阪府東大阪市長田西6丁目3-4

GEOSYSシリーズ 補修パーツリスト



ご注意

下記パーツおよび部位は、ヘルメットの性能を保持するため修理ができません。

- **帽体（シェル）**　・**衝撃吸収ライナー**
- **あごひも（バックル含む）**

※修理の詳細につきましては、弊社までお問い合わせください。

GEOSYSシリーズ・補修パーツ

No.	パーツ名称	パッケージ内容
1	CD-1シールド	CD-1シールド（標準：クリア）×1枚
2	CD-1 シールドラチェットセット	2-a: CD-1シールドラチェット（L/R）×1セット
		2-b: 7L-Bビス×4本
	シールドラチェットビスセット	2-b: 7L-Bビス×4本
3	D20F インナーパッド	P-23参照 インナーパッド×1個
4	D20F チークパッドセット	P-23参照 チークパッド（左右）×1セット
5	イヤーカップセットNo.1	イヤーカップNo.1×2個（左右共通）
6	D20F あごひもカバーセット	D20F あごひもカバー（左右）×1セット
7	プレスガード No.13	プレスガードNo.13×1個
8	ウィンドシャッター No.8	ウィンドシャッターNo.8×1個
9	D20F バイザー	D20F バイザー×1個
	D20F バイザーカラーセット	9-a: D20F バイザーカラー（L/F/R）
	D20F バイザービスセット	9-b: D20F バイザービス×3本
10	D20F ヘッドベンチレーション	D20F ヘッドベンチレーション×1個
11	D20F リアベンチレーション	D20F リアベンチレーション×1個

GEOSYSシリーズ・修理対応パーツ

※下記パーツは、一部を除いて弊社工場でのメーカー修理扱いとなり、基本的にお客様への直接販売は出来ません。
※当社製造不良等の原因以外による破損等につきましては、下記の通り有償修理となりますので、予めご了承ください。

	パーツ名称・修理内容	カラー	備 考
A	D20F ヘッドベンチレーション	単色/グラフィック	※パーツのみ販売可
B	D20F リアベンチレーション	単色/グラフィック	
C	D20F チンベンチレーション	単色/グラフィック	※修理対応のみ

パーツ・修理の情報は、QRコードよりスマートフォンでご覧いただけます。
QRコードの読み取りが出来ない場合はインターネット検索からでもご覧いただけます。

インターネット検索からご覧いただく場合 Kabuto　GEOSYS　パーツ　検索

https://www.ogkkabuto.co.jp/motorcycle/products/offroad/geosys/geosys/option_parts.html

■**修理のご依頼についての詳細は、28ページをご覧ください。**